



ご契約者さまへ 変額年金保険（特別勘定）決算のお知らせ



平素は格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

2023年度の「変額年金保険（特別勘定）決算のお知らせ（2023年4月1日～2024年3月31日）」を送付いたしますので、ぜひご一読ください。

- 変額年金保険（特別勘定）につきまして、各型別に2023年度の運用経過と2024年度の運用方針をお知らせいたします。
- 当資料は、ご契約者への情報提供を目的として作成したものであり、保険販売を目的としたものではありません。変額年金保険については、現在新規のお取り扱いを停止しています。
- お問い合わせは、担当ライフプランナー[®]または裏面記載のカスタマーサービスセンターまでお願い申し上げます。

「ライフプランナー[®]」は「ザ・プルデンシャル・インシュアランス・カンパニー・オブ・アメリカ」の登録商標です。

当期の運用経過

2023年度の日本経済は、好調な企業業績を背景として設備投資に底堅さが見られた一方で、コロナ禍からの需要回復による押し上げ効果の一巡や、実質賃金の低迷による個人消費の弱含みなどから景気は鈍い回復ペースに留まりました。

このような経済環境の中、国内債券市場（10年国債利回り）は、前年度末よりも金利上昇しました。年度初めは安定推移が続きましたが、7月および10月に日銀が金融政策の修正を行うと、一時0.90%台まで上昇しました。しかし、その後は米国の追加利上げ観測が後退し、米金利が低下に転じたことなどから、金利は低下基調となりました。年明け以降は再び金利が緩やかに上昇する中、3月に日銀が大規模金融緩和の解除を発表しましたが、緩和的な金融環境は当面継続されるとの見通しから影響は限定的でした。10年国債金利は前年度末比0.405%高い0.725%で取引を終えました。

国内株式市場（日経平均株価）は、前年度末よりも上昇しました。年度初めは底堅い米景気や円安の進行、企業業績の安定推移などに支えられ上昇基調で推移し、7月には約33年ぶりの高値を付けました。その後は、海外株式が軟調に推移したことや日銀による金融政策修正を受け、株価は不安定な動きが継続しました。しかし、年明け以降は、海外投資家による資金流入や円安の進行などを背景に、再び上昇基調となり、株価は過去最高値を更新しました。日経平均株価は、前年度末比12,327.96円上昇し、40,369.44円で取引を終えました。

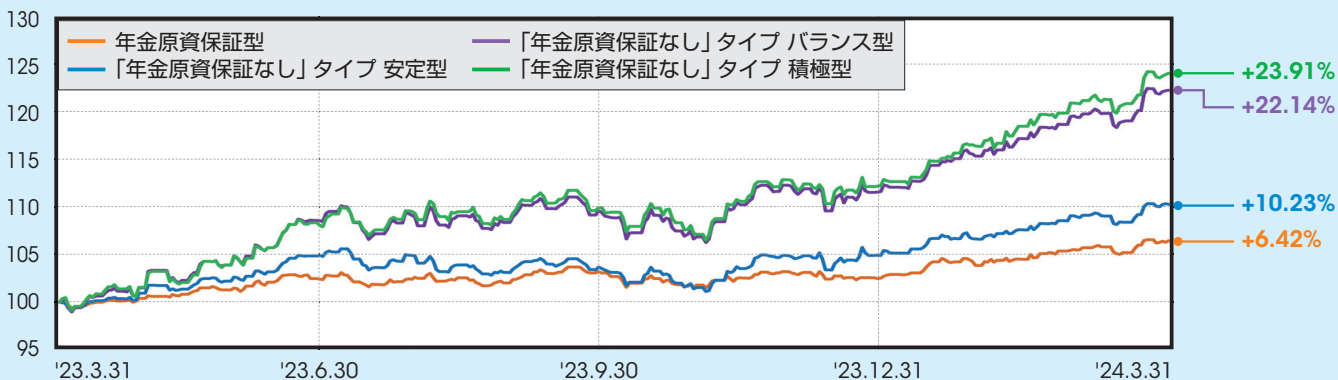
外国債券市場（米10年国債利回り）は、前年度末よりも上昇しました。年度前半は堅調な経済指標や根強いインフレ圧力を背景に、

米連邦準備制度理事会(FRB)が利上げを継続したことから、米国10年国債金利は上昇基調を辿りました。その後、金利は一時5%近辺まで上昇する場面がありましたが、利上げ局面の終りが意識され、金利は低下に転じました。年明け以降は、雇用や消費関連の経済指標の底堅さから早期利下げ観測が後退し、金利は再び緩やかな上昇基調となりました。米国10年国債金利は前年度末比0.731%高い4.201%で取引を終えました。

海外株式市場（S&P500種指数）は、前年度末よりも上昇しました。年度前半は、米国の景気後退局面入り懸念が和らいだことを背景に、上昇基調で推移しました。その後は、地政学リスクの高まりなどにより不安定な値動きとなる時間帯もあったものの、米国における利下げ期待の高まりを背景に再び上昇に転じました。3月末のS&P500種指数は前年度末から27.86%上昇し、5,254.35ポイントで終了しました。

外国為替市場（ドル円相場）は、前年度末よりも円安となりました。年度前半は米国における金融引き締めを背景に米国金利が上昇したことで日米金利差が拡大し、円安が大幅に進行しました。年度後半に入ると、米国金利が低下基調となったことや日銀による金融政策修正への警戒感が高まったことにより円高に振れました。しかし、その後は米金利が上昇に転じたことや、日銀による利上げペースは緩やかになるとの見方などから再び円安ドル高基調となりました。為替レートは前年度末比17.88円の円安水準の1ドル151.41円で取引を終えました。

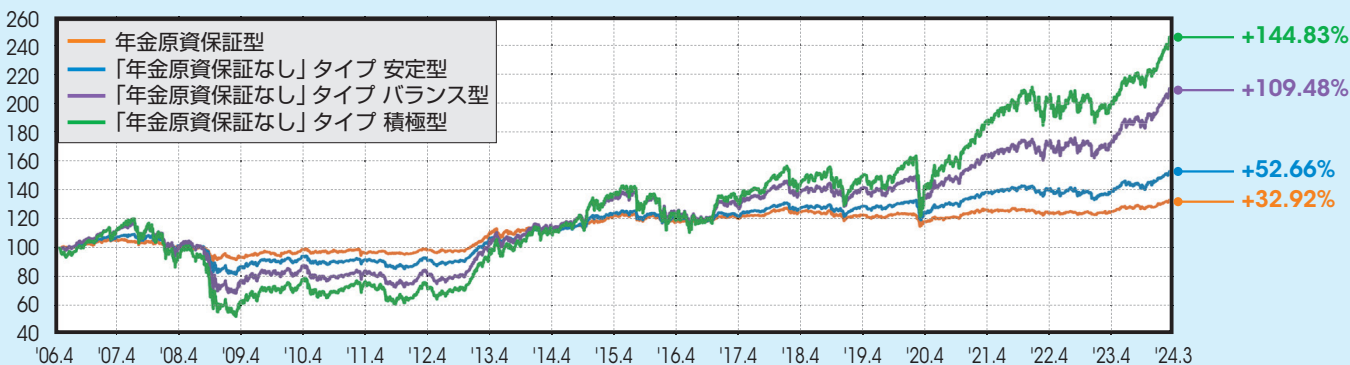
運用実績推移（当期）



※ 各特別勘定の運用実績は、2023年3月末を100として指数化しています。

※ このグラフは過去の実績を示したものであり、将来の成果を予測するものではありません。

運用実績推移（設定来）



※ 各特別勘定の運用実績は、2006年4月24日を100として指数化しています。

※ このグラフは過去の実績を示したものであり、将来の成果を予測するものではありません。

年金原資保証型

当期の資産運用実績と投資行動の分析

目標ポートフォリオに沿った運用を行いました。

当勘定の運用は、年金原資を保証することから、基本的には公社債（円建）75%、株式等（円建）25%を目標ポートフォリオとして運用を行っています。市場動向を見極めつつ、年金契約の年限に合わせて公社債（円建）を組み入れることによって年金原資を確保し、同時に株式等（円建）を組み入れることによってリターンのさらなる向上を目指します。2023年度の運用実績は、国内金利が上昇し、債券価格が下落したものの、株式が上昇したことから前年度末比+6.42%となりました。

運用実績

騰落率

前年度末比 +6.42%

直近6カ月比 +3.64%

総額126百万円

74.6%
公社債（円建）

23.9%
株式等（円建）

1.6%
現預金・その他

今後の運用方針

今後も市場動向を見極めつつ、目標ポートフォリオに沿った運用を行います。

「年金原資保証なし」タイプ 安定型

当期の資産運用実績と投資行動の分析

投資信託による運用を行っています。

安定した運用成果を獲得することを目標として、国内債券55%、国内株式15%、外国債券15%、外国株式15%を基本資産配分とした投資信託での運用を行っています。当期の世界経済は、インフレが落ち着きを見せる中、景気後退局面入りへの警戒感が徐々に和らぎ、堅調な推移となりました。

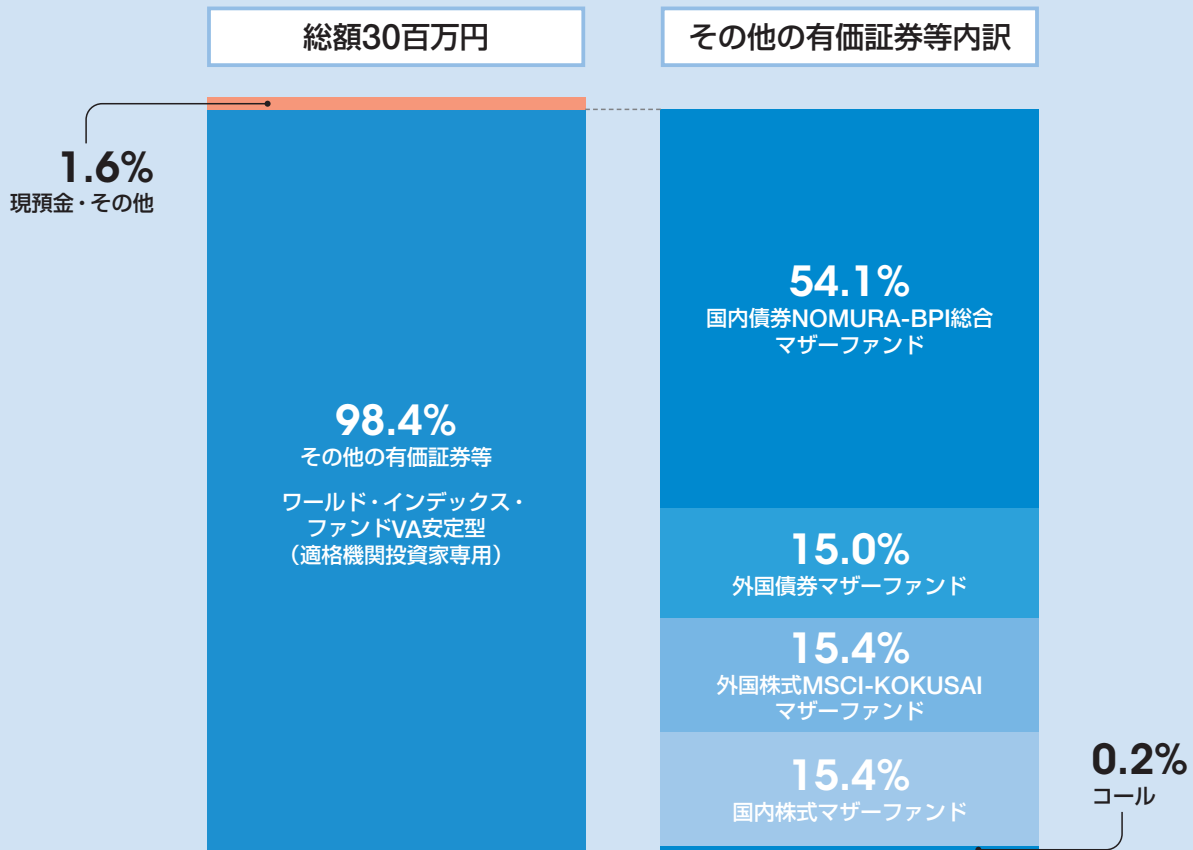
国内株式市場及び海外株式市場は、年度初めは底堅い米景気や円安の進行、企業業績の安定推移などに支えられ上昇基調で推移しました。その後は、地政学リスクの高まりなどにより不安定な展開となったものの、年明け以降は再度上昇に転じました。国内長期金利は、7月および10月に日銀が金融政策の修正を行うと、大きく上昇しました。その後、海外金利が低下に転じたことで低下基調となるも、年明け以降は、日銀による大規模金融緩和の解除への警戒感が高まり、再度上昇に転じました。年度末は0.70%近傍で取引を終えました。米国長期金利は、年度前半は米連邦準備制度理事会(FRB)が利上げを継続したことから、上昇基調を辿りました。その後、金利は一時5%近辺まで上昇する場面がありましたが、利上げ局面の終了が意識され、金利は低下に転じました。年明け以降は、雇用や消費関連の経済指標の底堅さから早期利下げ観測が後退し、金利は再び緩やかな上昇基調となりました。3月末の米10年国債利回りは前年度末比0.731%上昇した4.201%で終了しました。2023年度の運用実績は、前年度末比+10.23%となりました。

運用実績

騰落率

前年度末比 **+10.23%**

直近6カ月比 **+6.91%**



※ ワールド・インデックス・ファンドVA安定型 (適格機関投資家専用) は、「国内債券NOMURA-BPI総合マザーファンド」「外国債券マザーファンド」「外国株式MSCI-KOKUSAIマザーファンド」「国内株式マザーファンド」の各受益証券を主要投資対象として投資を行います。

今後の運用方針

今後も基本資産配分にあわせた投資信託による運用を行い、高水準の組み入れ比率を保持してまいります。為替ヘッジについては原則として行いません。

「年金原資保証なし」タイプ バランス型

当期の資産運用実績と投資行動の分析

投資信託による運用を行っています。

バランスのとれた運用成果を獲得することを目標として、国内債券20%、国内株式22.5%、外国債券30%、外国株式27.5%を基本資産配分とした投資信託での運用を行っております。当期の世界経済は、インフレが落ち着きを見せる中、景気後退局面入りへの警戒感が徐々に和らぎ、堅調な推移となりました。国内株式市場及び海外株式市場は、年度初めは底堅い米景気や円安の進行、企業業績の安定推移などに支えられ上昇基調で推移しました。その後は、地政学リスクの高まりなどにより不安定な展開となったものの、年明け以降は再度上昇に転じました。国内長期金利は、7月および10月に日銀が金融政策の修正を行うと、大きく上昇しました。その後、海外金利が低下に転じたことで低下基調となるも、年明け以降は、日銀による大規模金融緩和の解除への警戒感が高まり、再度上昇に転じました。年度末は0.70%近傍で取引を終えました。米国長期金利は、年度前半は米連邦準備制度理事会(FRB)が利上げを継続したことから、上昇基調を迎えました。その後、金利は一時5%近辺まで上昇する場面がありましたが、利上げ局面の終了が意識され、金利は低下に転じました。年明け以降は、雇用や消費関連の経済指標の底堅さから早期利下げ観測が後退し、金利は再び緩やかな上昇基調となりました。3月末の米10年国債利回りは前年度末比0.731%上昇した4.201%で終了しました。2023年度の運用実績は、前年度末比+22.14%となりました。

運用実績

騰落率

前年度末比 +22.14%

直近6カ月比 +12.23%

総額53百万円

その他の有価証券等内訳

0.8%
現預金・その他

99.2%
その他の有価証券等
ワールド・インデックス・
ファンドVAバランス型
(適格機関投資家専用)

19.5%
国内債券NOMURA-BPI総合
マザーファンド

29.6%
外国債券マザーファンド

27.9%
外国株式MSCI-KOKUSAI
マザーファンド

22.9%
国内株式マザーファンド

0.2%
コール

※ワールド・インデックス・ファンドVAバランス型(適格機関投資家専用)は、「国内債券NOMURA-BPI総合マザーファンド」「外国債券マザーファンド」「外国株式MSCI-KOKUSAIマザーファンド」「国内株式マザーファンド」の各受益証券を主要投資対象として投資を行います。

今後の運用方針

今後も基本資産配分にあわせた投資信託による運用を行い、高水準の組み入れ比率を保ってまいります。為替ヘッジについては原則として行いません。

「年金原資保証なし」タイプ 積極型

当期の資産運用実績と投資行動の分析

投資信託による運用を行っています。

積極的に高い運用成果を獲得することを目標として、国内債券10%、国内株式25%、外国債券10%、外国株式55%を基本資産配分とした投資信託での運用を行っています。当期の世界経済は、インフレが落ち着きを見せる中、景気後退局面入りへの警戒感が徐々に和らぎ、堅調な推移となりました。国内株式市場及び海外株式市場は、年度初めは底堅い米景気や円安の進行、企業業績の安定推移などに支えられ上昇基調で推移しました。その後は、地政学リスクの高まりなどにより不安定な展開となったものの、年明け以降は再度上昇に転じました。国内長期金利は、7月および10月に日銀が金融政策の修正を行うと、大きく上昇しました。その後、海外金利が低下に転じたことで低下基調となるも、年明け以降は、日銀による大規模金融緩和の解除への警戒感が高まり、再度上昇に転じました。年度末は0.70%近傍で取引を終えました。米国長期金利は、年度前半は米連邦準備制度理事会(FRB)が利上げを継続したことから、上昇基調を辿りました。その後、金利は一時5%近辺まで上昇する場面がありましたが、利上げ局面の終了が意識され、金利は低下に転じました。年明け以降は、雇用や消費関連の経済指標の底堅さから早期利下げ観測が後退し、金利は再び緩やかな上昇基調となりました。3月末の米10年国債利回りは前年度末比0.731%上昇した4.201%で終了しました。2023年度の運用実績は、前年度末比+23.91%となりました。

運用実績

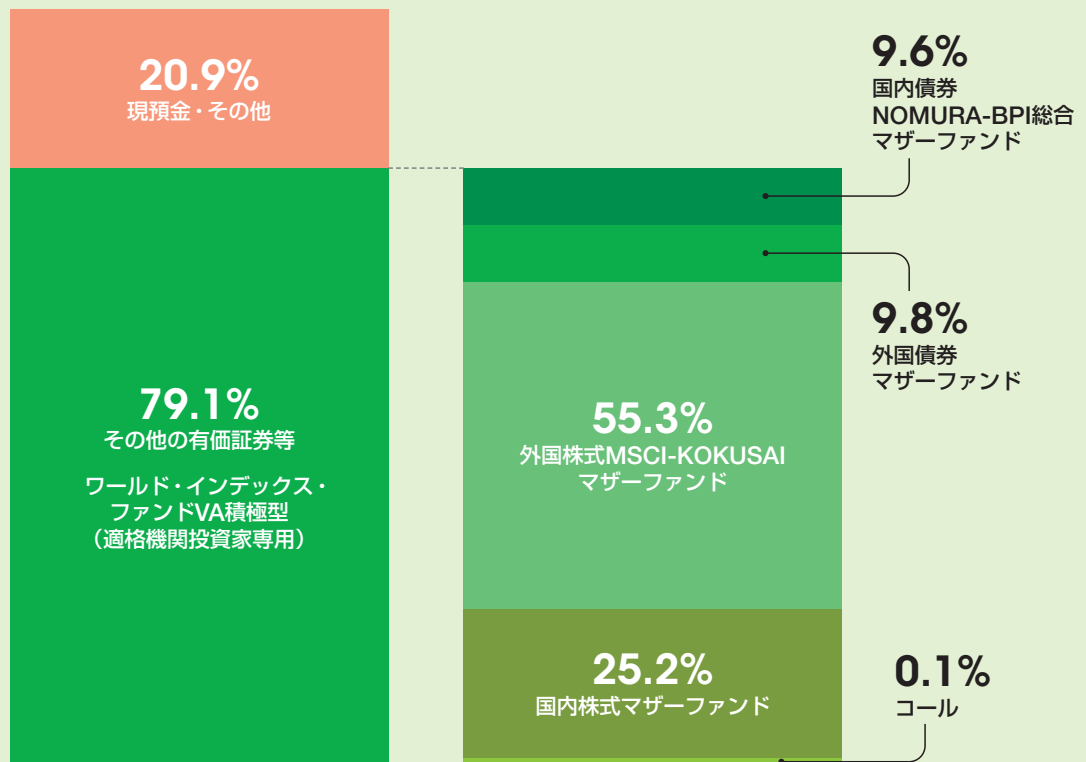
騰落率

前年度末比 **+23.91%**

直近6カ月比 **+13.25%**

総額2百万円

その他の有価証券等内訳



※ ワールド・インデックス・ファンドVA積極型 (適格機関投資家専用) は、「国内債券NOMURA-BPI総合マザーファンド」「外国債券マザーファンド」「外国株式MSCI-KOKUSAIマザーファンド」「国内株式マザーファンド」の各受益証券を主要投資対象として投資を行います。

今後の運用方針

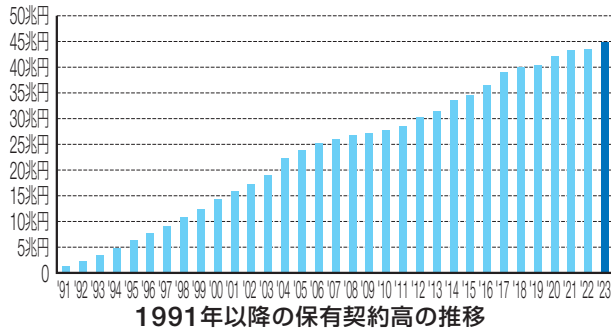
今後も基本資産配分にあわせた投資信託による運用を行い、高水準の組み入れ比率を保ってまいります。為替ヘッジについては原則として行いません。

プルデンシャル生命の2023年度決算の数字をお知らせいたします。

保有契約高

44兆8,701億円

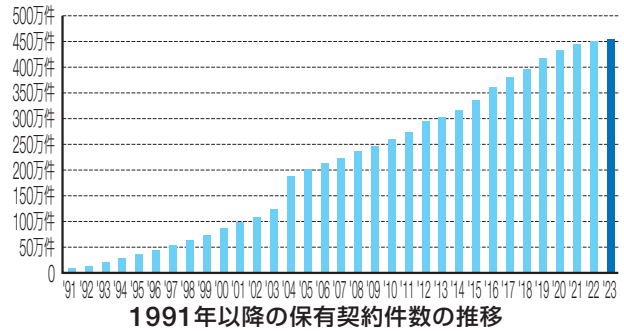
保有契約高とは、お引き受けした保障の総額です。プルデンシャル生命の保有契約高（個人保険+個人年金）は、前年度末比3.2%増の44兆8,701億円となりました。



保有契約件数

455万件

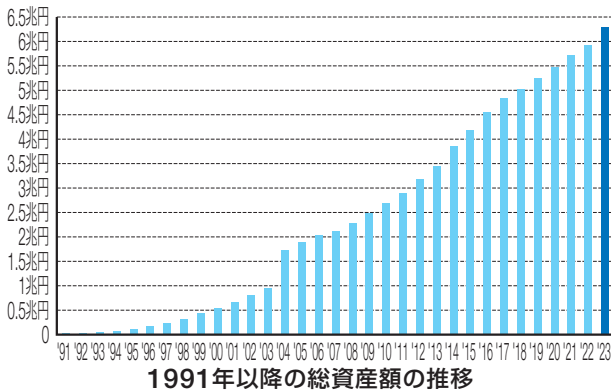
保有契約件数とは、お引き受けしている保険契約の総数です。プルデンシャル生命の保有契約件数（個人保険+個人年金）は、引き続き順調に増加し、2023年度末で455万件（前年度末比1.1%増）となりました。



総資産額

6兆2,904億円

保険会社の規模を表す数値の1つである総資産額。2023年度末のプルデンシャル生命の総資産額は6兆2,904億円となり、前年度末比6.1%増と、順調に増加いたしました。



ソルベンシー・マージン比率

749.3%

ソルベンシー・マージン比率とは、「支払余力」を意味し、大災害や株の大暴落など、通常の予測を超えて発生するリスクに対し、どの程度「支払余力」を有しているかを判断する行政監督上の指標の1つです。保険会社の保険金を支払う能力を表す指標の1つとも言うことができ、支払能力総額を各種リスク合計額の半分で割った数値で、200%がリスクをカバーできる目安となります。プルデンシャル生命では、2023年度は749.3%という水準になりました。

（2024年3月31日現在）

保険財務力格付け^{※1}

A+

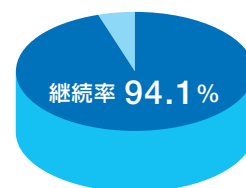
国際的な格付会社であるS&Pグローバル・レーティングから、A+の評価を得ています。

（2024年5月10日現在）

※1 格付けは格付会社の意見であり、また一定時点での数値、情報等に基づいたものであるため、将来的に変更される場合があります。保険財務力格付けは、保険会社全体を評価しているものではなく、また将来の保険金支払いなどについて保証しているものではありません。

保険契約の継続率

94.1%



継続率とは、お客様に生命保険の契約を続けていただける割合です。プルデンシャル生命は、1年経過後（13ヶ月目）で94.1%、2年経過後（25ヶ月目）で85.3%のお客様にご契約を継続していただいております。

変額年金保険に関するご注意

変額年金保険について、特にご注意いただきたい事項がありますので、必ずご一読ください。

1. ご契約にかかる諸費用

変額年金保険では、ご契約にかかる諸費用をお客様にご負担いただきます。また、諸費用は積立金より控除いたします。以下の他、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、ユニットバリュー*に反映することとなります。したがって、お客様はこれらの費用を間接的に負担することとなります。

* ユニットバリューとは、変額年金保険の各特別勘定設定時の資産を100として、その後の運用成果による資産の増減を指数で示したものです。なお、詳しくは「変額年金保険のご案内 [リスク等説明書面](#)」をご覧ください。

● ご契約にかかる諸費用

	項目	金額	目的	控除する時期
積立期間中	保険契約管理費	前日末の特別勘定資産に、年率1.12%の1/365を乗じた金額	基本保険金額を死亡保険金額の最低保証とするための費用、災害死亡保険金のための費用、会社の経費に充てるための費用	毎日、その日の終わりの特別勘定資産から控除します
	信託報酬等*1	詳しくは下記「信託報酬等について」をご覧ください	特別勘定の運用に関わる費用（特別勘定の投資対象となる投資信託の信託報酬等）	投資信託の純資産総額から毎日控除されます
	最低年金原資保証コスト（「年金原資保証あり」タイプのみ）	前日末の積立金額に、積立期間に対応する最低年金原資保証コスト*2の年率の1/12を乗じた金額	年金原資の最低額（＝一時払保険料）*3を保証するための費用	毎月月初の日の始めの積立金額から控除します
年金支払期間中	年金管理費	年金額の1%	年金支払のための管理費用	年金開始日以後、年金支払日に積立金から控除します

*1 信託報酬等について

信託報酬とは、投資信託の運用や管理に対する費用としてご負担いただくもので、特別勘定の投資対象となる投資信託の純資産総額に対し、各特別勘定毎に設定されている信託報酬率を乗じた金額が毎日控除されます。その他、組み入れている投資信託の監査費用がかかります。また、当該投資信託を解約する場合、各特別勘定ごとに設定される下記「特別勘定の投資対象となる投資信託の信託財産留保額」の金額が信託財産留保額として解約時の基準価額より控除されます。

■ 年金原資保証ありタイプの場合

年金原資保証型で投資対象としている投資信託（TOPIX連動型上場投資信託）の信託報酬は、純資産総額によって変動します（上限：年率0.0968%）。

■ 年金原資保証なしタイプの場合

特別勘定名	安 定 型	バランス型	積 極 型
投資対象となる投資信託	ワールド・インデックス・ファンドVA安定型 (適格機関投資家専用)	ワールド・インデックス・ファンドVAバランス型 (適格機関投資家専用)	ワールド・インデックス・ファンドVA積極型 (適格機関投資家専用)
信託報酬率	年率 0.308%	年率 0.308%	年率 0.308%
信託財産留保額	投資信託の基準価額の 0.1% (1万口につき)	投資信託の基準価額の 0.2% (1万口につき)	投資信託の基準価額の 0.3% (1万口につき)

※ 投資対象となる投資信託、信託報酬率および信託財産留保額は、将来に向かって変更される可能性があります。

* 2 積立期間に対応する最低年金原資保証コスト (年率)

積立期間	年 率	積立期間	年 率	積立期間	年 率	積立期間	年 率
10年	0.98%	15年	0.42%	20年	0.24%	25年	0.19%
11年	0.87%	16年	0.38%	21年	0.23%	26年	0.18%
12年	0.76%	17年	0.35%	22年	0.22%	27年	0.17%
13年	0.64%	18年	0.31%	23年	0.21%	28年	0.16%
14年	0.53%	19年	0.28%	24年	0.20%	29年	0.15%
						30年以上	0.14%

* 3 積立期間中 (年金開始日前) に基本保険金額を減額した場合には、減額後の基本保険金額

● 積立金移転手数料

「年金原資保証なし」タイプの場合は、積立金の移転 (スイッチング) を年12回まで行うことができます。これを超えた場合、つぎの積立金移転手数料がかかります。

積立金移転回数	手数料	控除方法
同一保険年度内12回目まで	無 料	—
同一保険年度内13回目から	1回につき1,000円	積立金より控除

● 解約控除

契約日より10年以内にご契約を解約された場合または減額された場合にお支払いする解約返戻金額は、解約日または減額日の積立金額に、経過年数に応じた下記の解約控除率を乗じた金額を、積立金から差し引いた金額とします。

したがって、ご契約後短期で解約された場合、運用実績がプラスの場合でも、お払い込みいただいた一時払保険料より少ない金額となり、損失が生じるおそれがあります。

経過年数	0年	1年	2年	3年	4年	5年
控除率	7.0%	6.3%	5.6%	4.9%	4.2%	3.5%
経過年数	6年	7年	8年	9年	10年以上	
控除率	2.8%	2.1%	1.4%	0.7%	0.0%	

※ 1年未満の月数が端数として生じたときは、経過月数により期間按分して解約控除率を計算します。1月未満の日数については、切り捨てて取り扱います。

2. 投資リスク

- 変額年金保険は、特別勘定の運用実績に応じて保険金額や将来の年金原資額等が変動する仕組みの保険です。
- 特別勘定に属する資産の運用実績に影響を与える指標としては、**金利**、**為替価格**、**株価**、**債券価格**、**その他の有価証券相場** 等があります。
- 変額年金保険においては、運用実績が将来の年金額や解約返戻金額に反映されますので、これらの指標の変動による影響を受けます。
したがって、株価の下落や金利の上昇および信用悪化に伴う債券価格の下落、為替の変動（主に円高）などにより、将来受け取る年金額や解約返戻金額が、一時払保険料を下回る可能性があり、損失が生じるおそれがあります*。

* 積立期間中の死亡保険金額は、基本保険金額（＝一時払保険料）が最低保証されます。

3. つぎの点にもご注意ください

- 「年金原資保証あり」タイプの場合は、将来受け取る年金の原資となる金額について、一時払保険料額が最低保証されます。ただし、最低年金原資保証コストがかかるため、「年金原資保証なし」タイプにくらべ、運用成果への期待は低くなります。
- ご契約の途中で「年金原資保証なし」タイプから「年金原資保証あり」タイプへの変更はできません。
- 変額年金保険は、プルデンシャル生命保険を引受保険会社とする生命保険商品です。

My ページ マイ

登録のご案内

Myページは、プルデンシャル生命のご契約者さま専用Webサイトです。
ご契約内容の照会や各種お手続き、当社からのお知らせをWebサイト上で確認できます。

※ 事業保険契約は対象外となります。

PCやスマートフォンから簡単に
変額年金の積立金移転を行うことができます



● Myページの主な機能

契約内容・ 電子証券の照会※1

保険種類・保障内容・電子証券
などが簡単に確認できます

住所・電話番号 の変更

お引越などで、ご住所・
お電話番号を変更した際の
お手続きが簡単にできます

給付金請求書類 の提出

入院や手術をされた場合に
画像アップロードによる
給付金請求手続きができます

プルデンシャル 生命からの お知らせの確認※2

ご契約に関する各種通知を、郵
送に替えてメールでお届けしま
す（メールに記載のURLからロ
グインして確認いただけます）

契約者貸付 のご請求※2 ※3

急に資金が必要になったとき、
解約返戻金の一定範囲内で
契約者貸付手続きができます

変額年金の 積立金移転※3

変額年金保険の積立金ファンド
の移転を行うことができます

※1 電子証券のご利用には、お申し込み時に「保険証券等の電子化に関する特約」の付加が必要です

※2 旧あおば生命（旧日産生命）のご契約はご利用いただけません ※3 ご契約者さまが未成年の場合はご利用いただけません

その場で簡単にご登録いただけます！

STEP
1

利用申請

お手元に証券番号を
ご用意ください

STEP
2

ご契約者さま 情報入力

STEP
3

利用登録

※ 追加認証のため、ご登録の
メールアドレス宛へ
確認番号を送付します。

利用申請は…



スマートフォン・タブレット
をご利用の方は、こちら



プルデンシャル生命のホームページから

プルデンシャル生命 マイページ

検索

<https://www.prudential.co.jp/contractor/mypage/>



ブルデンシャル生命保険株式会社
本社 / 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-10

カスタマーサービスセンター

0120-810740

パートナーフォーユー 【営業時間】 平日9:00～17:30
土曜9:00～17:00
(日曜・祝休日、年末年始は休業)

※ご希望の照会内容やお手続きによっては、カスタマーサービスセンターから担当ライフプランナーへ対応を代わらせていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

インターネットホームページアドレス <https://www.prudential.co.jp>